



通学路点検から学ぶ

副校長 菅原 友子

先日、通学路点検をしました。学校、PTA、教育委員会、所管警警察署、区土木部交通安全課の15名合同での現地調査です。事前に地域委員会で挙げてもらった防犯・交通安全の両面から点検をしてほしい箇所を2時間かけて点検を行いました。

今回のように子供たちが毎日通っている通学路を改めて防犯・交通安全の視点で歩いてみると、様々な危険が潜んでいることが分かりました。「ここは、自転車が止まらずに曲がってくるので、子供がぶつかりそうになったことがあります。」「この道は、抜け道になっているので、自動車の量が多いです。」そう話をしている最中にも、止まらずに曲がって来る自転車が次々と目の前を通り過ぎる場面や、自動車と自転車が出会いがしらにぶつかりそうになる場面に遭遇しました。平日の午前中でしたが、きっと、子供たちが通る朝や夕方の通学、通勤時間帯は、もっと・・・と考えると怖くなりました。

不審者情報が報告されていた箇所には継続的なパトロールの実施、猛スピードで自転車が通る箇所には「自転車止まれ 左右確認」の看板や「自転車ストップ」の路面標示を付けてもらう要請をしました。路面標示が薄くなっている箇所は、濃く塗り直すなどの対策もしていただけたとのことでした。

本校には、4人の学童擁護さんが勤務しています。他にも、コロナ禍であっても活動してくださっている安パトの皆さん、通学時間帯にバリケードの出し入れをしてくださっている地域・保護者の皆さん、21年間ボランティア活動で横断歩道に立ち続けている方など、多くの大人が子供たちの安全を見守ってくださっています。でも、完璧な安全対策はできません。実際に危険な目に合うのは子供たちです。歩きなれた通学路ではありますが、今一度、お子さんと一緒に歩き、お子さんの目線で危険箇所等を確認してみてください。

今回の通学路点検を通して、警察の方からのご指導を含め、お伝えしたいことを以下にまとめました。学校でも指導しますが、子供たちの命を守るために、ご家庭でも話をしていただければと思います。よろしくお願いたします。

- ・何かあったら、**すぐに110番**。（学校ではなく、まず110番をしてください。）
- ・登下校は、一人ではなく、**集団**で。
- ・道に広がって歩かない。
- ・横断歩道（信号機の無いところも）は、**自動車が止まったことを確認してから渡る**。（運転手と目を合わせる。）